

2011 年

10 月 30 日（日曜日）本物の絆 「国民文化祭・京都 2011」小町ろまん短歌大会

本市は、平安の六歌仙・小野小町の終焉の地の伝説が残り、これを記念して平成 8 年に小町公園が完成しましたが、この年から「小町ろまん短歌大会」を全国の愛好者の皆さんをお迎えして開催をさせていただいています。

また、平安中期の歌人である和泉式部の伝承も伝えられ、当時、夫の任地である丹後に住み歌を残されたのであり（歌碑があります。伝承地としても、金峰神社、桜尾公園の“式部塚”、“和泉谷”という小字名が現存しています。）、古来から短歌にご縁をいただいている土地であります。

私たち京丹後は、かつて、古代丹後王国が栄え、内外のヒト、モノ、文化交流の中心だったといわれる、ある意味で、日本文化のふるさとであります。他方、短歌も、かつて和歌と呼ばれ、日本文学の歴史の中でジャンルとして歴史を通じて一貫している唯一のものとされるように、日本文化の元祖、本家本元の代表です。

今日明日と国民文化祭という素晴らしい国民的行事の中で、日本文化のふるさと・丹後において日本文化の本物の元祖・短歌が再会を重ね、にぎわう。営々と営みつがれた日本文化と風土の歴史の原点の絆、故き原点を温め、確かめ合って、そして、両者の絆が本物であるだけに未来に向けても本物の活力と希望が自ずと育まれていく機会になりますことを期待しています。

この大会を準備、企画いただきました岩田委員長、来嶋審査委員長、沖先生はじめ選者の皆さん、関係者の皆さんに心から感謝します。